

# きずな協働体通信

このコーナーでは、市内7地区で設立された「きずな協働体」の活動やイベント情報を紹介します！

## 三松地区

### 第1回「みまつ食堂」大成功！

チームみまつ協働体・安心安全部会では、12月から水流通公民館の茶のん場の送迎事業を開始しました。茶のん場利用を促進し、交流を活性化することが目的です。家族による送迎の負担を減らす効果も期待できます。

学び交流部会では、12月2日に第1回「みまつ食堂」を開催しました。小雨のなかでしたが、多くの人で賑わいました。今回、市立図書館の移動図書車も設置し、待ち時間の間に読書を楽しんでいた方がいました。初めての試みでしたが、食材や食器類の寄付、ボランティアの協力をいただき、大成功に終わりました。ありがとうございました。



幼児から高齢者まで、食を通して交流することができました。

## 野尻地区

### 歴史ある野尻のイルミネーションに新企画！

のじりイルミネーションの一環として、大塚原公園（ゆばるのじり隣接）でイルミネーションで着飾ったトラクターソリ（客車）を運行しました。8日間で延べ951人が乗車し、大盛況でした。野尻町外からの来場者が約8割で、県外からも多くの方に来ていただきました。また、イベントに併せてスタッフや地域住民のボランティアで綿菓子の子のふるまひも行いました。

「とても楽しかった」「来年もまた来たい」との声も多く、次回は更にグレードアップさせて皆さんの期待に応えていきます。今後も、元気なまちづくり邁進してまいりますのでぜひご期待ください。



大塚原公園の頂上でふるまわれた綿菓子に子ども達は大喜びでした！

## 須木地区

### 地域全体で高齢者を守る地域づくりを目指します！

12月1日に、鳥田町地区で高齢者声かけ見守り訓練を開催しました。訓練には地域住民をはじめ、市社会福祉協議会、すきむらづくり協議会、地域域包括支援センター、須木駐在所長など約100人が参加。昨年、中央地区で行われたこの訓練の数日後に、奈佐木地区で行方不明者の捜索活動で、地域住民の声かけから発見・救出につながった実例があったこともあり、参加者は熱心に受講していただきました。訓練では、新たな発見もあり大変充実したものとなりました。



地域住民で「認知症役」や「声かけ役」を担って模擬訓練を実践しました。



日本赤十字社 小林市赤十字奉仕団  
小林市献血推進協議会委員

いのうえ 井上りょう子さん(67)

若い人から献血会場で「また来たよ」と声をかけられることが本当にうれしい。この輪を少しずつ広げていきたい。

小林  
こばやしびと  
Vol.85

治療や手術に必要な血液は、そのほとんどが献血によって賄われている。市内でも毎月、スーパーや公共施設などに愛の献血車が訪れる。そこで、笑顔で献血の協力を呼びかける人がいる。小林市赤十字奉仕団の井上りょう子さん、67歳。

「若いころは子育てや仕事など、自分のことで精いっぱいだった。年を重ねた今、地域に恩返しをしたいと思ひ活動しています」。

井上さんは仕事を退職した8年前に赤十字奉仕団に入団。2年前から献血推進協議会委員を務めている。主な活動は、献血の呼びか

け、勉強会や役員会への参加などだ。

「私も全ての活動には参加できていません。でも、多くの方が協力してくるから活動できています」。

同団倉田玲子副委員長は、井上さんの人柄を「真面目で、いつも一所懸命な人」と話す。その言葉通り、勉強会などに積極的に参加し、その度に内容をまとめ団員に伝えている。この姿勢が信頼につながっているのだ。

「勉強会で、献血で救われた人の話を直接聞いたことがあります。そのとき、人の命を救えるのは人なん

だと実感しました。だからこそ、活動の輪を広げていきたいんです」。

献血は、若年層の割合が低い。そのため、毎年1・2月、「私たちの献血」キャンペーンとして全国的にPR活動が行われている。

「若い世代は仕事や育児などで忙しく、協力できない現状があります。でも、私が声をかけた若い方が『また来たよ！』と言ってくれることもあるんです。それが本当にうれしい。この輪を少しずつ広げていければいいですね」。

井上さんがつなぐ優しさの輪が今日も尊い命を救う。



写真④「愛の献血車」。この車が献血会場の目印。⑤献血会場では、啓発用のグッズを一人一人に笑顔で配る。⑥10月の宮崎県防災訓練でカレーのふるまひをした。奉仕団の一員として防災活動にも精力的だ。